

令和 6 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
522031	
選定番号	A110

代表者	校 園 名：	大阪市立桜宮中学校
	校園長名：	向井 秀俊
	電 話：	06-6921-6934
	事務職員名：	櫛谷 葵
申請者	校 園 名：	大阪市立桜宮中学校
	職名・名前：	英語科主任 田中 美恵
	電 話：	06-6921-6934

令和 5 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A		研究年数	新規研究（1 年目）	
2	研究テーマ	全員参加型オールイングリッシュの授業実現に向けて ～「英語脳」、「英語耳」、「英語口」づくり～					
3	研究目的	1. インプット促進活動により、オールイングリッシュの授業での理解促進を図る。 （1）多読マラソン：長文を読むことで英語に長時間触れるスタミナをつけ、英語の処理速度を高める。 また、付随的語彙学習により語彙力を向上させ、「英語脳」づくりを目指す。 （2）ストーリータイム：C-Netの絵本読み聞かせを通して読み聞かせの手法を学び、読み聞かせ大会を開催する。英語特有のリズムを身に着けることで、「英語耳」「英語口」づくりを目指す。 2. 国際交流を含めたアウトプット促進活動により、オールイングリッシュの授業における生徒間の英語でのやり取り活性化を図り、世界の共通語として英語を学ぶ重要性を認識させる。 （1）国際交流（Web・対面）、（2）文通、（3）英会話カードゲーム 3. 教員の技能向上により、オールイングリッシュの授業をやりやすくする。 （1）英語教員とC-Netの交流機会を増やすことにより、教員の英会話力向上を図る。 （2）米国政府助成金プログラムの奨学生として、大学院レベルの英語教育学の授業を受講する(1名)。					
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSコシク 9.5ポイント） ＜2023年：1 学期＞ 4 月・今の課題や先行研究を確認後、研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討 ・国際交流先との打ち合わせ実施 ・C-Netによるストーリータイム開始(Dr. Seuss “Fox in Socks” 使用、以降継続) ・授業内多読マラソン開始(読みトレ50使用、以降継続) ・テンプル大学日本校大学院英語教授法受講(講師：加藤学園イマージョン教育代表者、以降継続) 5 月・英会話カードゲームによるオールイングリッシュ活動実施(以降継続) ・ニュージーランドの子ども達と小グループ国際交流実施(以降継続) ・アメリカの高校生とビデオレター交流活動実施(以降継続) ・多読活動経験がある他校教員との交流 7 月・文通活動開始(以降継続) ＜2 学期＞ 10月・国際理解教育出前授業(英語で体験型交流、以降継続、3学期Thank You Card作成) ＜2024年：3 学期＞ 1 月・C-Netとの文通活動開始  2 月・研究授業・研究発表会実施 ・教員・生徒への事後アンケート実施・分析・結果考察 ・日本多読学会関西多読指導者セミナー参加					
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。					
	日程	令和 6 年 2 月 5 日				参加者数	約 9 名
	場所	大阪市立桜宮中学校					
	備考						

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>テンプル大学ジャパンキャンパス大学院教育学研究科の授業受講やその内容の共有により、最新の英語教授法に関する教員の知識並びに指導力の向上が期待される。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果：3.5</p> <p>昨年度に引き続き、米国政府助成金プログラムの奨学生として、テンプル大学ジャパンキャンパス大学院教育学研究科の授業を英語で受講した。最新の海外の英語教授法について多くのことを学ぶ中、生の英語や異文化に触れる機会を生徒に多く提供することが、語学習得には重要であることを改めて認識することができた。また、本研究が目指す、比較的容易に理解ができるレベルの英語に大量に触れる多読活動や発信活動、そして意図的な語彙学習を組み合わせた学習の効果が、語学学習の研究により高く評価されていることを確認することができた。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>英語教員とC-Netの交流機会を増やすことや、国際交流活動や多読活動を通して、教員の外国・異文化に関する知識や、英語力の向上が期待される。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果：3.5</p> <p>世界中の国々と交流をすることで、生徒と共に教員も交流先について多くのことを学んでいる。また、C-Netと気軽に交流ができるように、少人数でC-Netと評価対象外で自由に会話をする時間を設けたり、単語テストの裏面を使ったC-Netとの文通活動を行った。パフォーマンステストや英検の面接対策などでC-Netと生徒がやり取りする時は、評価対象となるためにどうしても気軽に話ができない。自由会話や文通活動では英語が苦手な生徒も非常に積極的に参加し、楽しむことができた。出前授業による対面式交流では、多様な国の遊びやダンスなどを通して外国を身近に感じることもできた。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>多読マラソンを通して、生徒の長文読解力・語彙力・英語処理速度が向上し、英語を日本語に訳さずに英語のまま理解することが容易になる（「英語脳」づくり）。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果：3.7</p> <p>研究の主な対象になっている2年生は、目を見張る成長ぶりだ。去年の1月実施のチャレンジテストでは、大阪府平均59点に対して本校平均70点(対比119%)と高得点を収めた。4技能向上の意欲が強く、英検も積極的に受験している。普段英語の授業を受けている生徒の約7割が既に4級以上を受験し、未受験者の多くが次回の英検に挑戦する見込みだ。2級合格レベルが約10名、準2級約15名、3級約25名と、約半数が既に3年次目標のCEFR A1以上のレベルに到達し、残りの生徒も大多数が4級レベルの力がついてきている。全員が卒業までに3級合格レベルになることを願いながら、今後も「英語脳」づくりに励みたい。</p>
---	-------	--

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果 4】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ストーリータイム活動を通して、生徒が英語特有のリズムを身に付けることで、英語特有の発音を理解し（「英語耳」づくり）、自分でも英語らしい発音ができるようになる（「英語口」づくり）。また、国際交流活動などのアウトプット活動を通して、世界の共通語として英語を学ぶ重要性を生徒が認識することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果：3.7</p> <p>本年度は、ストーリータイム活動に加え、Reading Progressという音読テストアプリを使ったリーディング・パフォーマンス・テストという課題に頻繁に挑戦し、英語特有のリズム習得に努めた。2学期後半はクリスマスソングをReading Progressの課題とした、シンギング・パフォーマンス・テストにも挑戦し、「英語耳」「英語口」づくりに励んだ。出前授業では英語圏・非英語圏出身の講師のオールイングリッシュの授業に挑戦し、多様な英語のアクセントに触れ、英語以外の外国語の言葉も少し学ぶことで、世界の共通語として英語が使われているという認識を高めることができた。</p>
		<p><b>【研究全体を通じた成果と課題】</b> 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>【成果】本年度の主な研究対象である2年生は、入学時にほとんどが小学校の語彙や基本文が未定着で音読にも苦労したが、2年間継続して語彙学習・多読・交流などを行い、教科書以外の生の英語に触れる機会を多く提供してきた。今では、4技能全て新しい教科書が求める以上の力を培うことができている。本年度の大きな成果の一つは、多読図書に挑戦し、楽しむ生徒が増えたことだ。特にPearson社のディズニの本が人で、自分のレベルや興味に合う本を選ぶ。英語が苦手な生徒は1冊数百語、得意な生徒は数千語の本に挑戦中だ。外国人との英会話を心から楽しめるようになったことも、大きな成果だ。ニュージーランドとのWeb交流では笑いが絶えない。英語が得意な子も苦手な子も一緒に、コミュニケーションボードを駆使して一生懸命英語で話している様子は、見ていて非常に頼もしい。</p> <p>【課題】多読図書を活用する生徒が増えたため、書籍の数が不足してきた。次年度は冊数を増やして、多読の輪を更に広げていきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>1年目であるが、昨年度まで3年間の取り組みの上に成り立っているため、非常にスムーズな進行であった。手前味噌ではあるが、本校の英語科の取り組みは、他校ではなかなか見ることができない非常に先進的なものである。これは田中を中心とした英語科教員の努力の賜物である。子どもたちの英語力のずば抜けた高さからもその成果ははっきりと示されている。今後も、さらに大阪市をリードする取り組みを行い他校にも発信することで、大阪市全体の子どもの英語力を向上させたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>